



今月の表紙：フィンセント・ファン・ゴッホ《夜のカフェテラス》(1888年)。

特集 芸術家と神経学

- 1309 ショスタコーヴィチの右手麻痺 神田 隆
1319 マルセル・プルースト
『失われた時を求めて』と記憶・時間の神経学の誕生 河村 満, 他
1327 ベートーヴェンの病跡と芸術 酒井邦嘉
1333 フアン・ゴッホの病跡学と病気の絵画への影響 下畠享良
1341 エゴン・シーレとジストニア 高尾昌樹
1347 卓越した絵画能力を支える脳基盤 三村 將
1357 脳科学の視点で読むドストエフスキイとポリフォニー 虫明 元

総説

- 1363 靈長類における顔の本能的認知機構 西条寿夫, 小野武年
1371 神経疾患の難病・難症に使える漢方 新見正則

症例報告

- 1377 低体温症によると思われる無動・寡動の悪化を繰り返したパーキンソン病の1例 諏訪裕美, 他

連載

- 1381 現代神経科学の源流
第17回 ノーム・チョムスキー【V】 福井直樹 × 酒井邦嘉
1386 脳神経内科領域における医学教育の展望 — Post/with コロナ時代を見据えて
第4回 オンライン教育時代を生き抜くための6つの視点 浅田義和
1390 スペシャリストが薦める読んでおくべき名著 — ニューロサイエンスを志す人のために
第3回 神経放射線学の教科書 — 今昔物語 百島祐貴
1392 臨床神経学プロムナード — 60余年を顧みて
第10回 発病期(小児, 青年, 成人)で症候が異なる神経疾患:
(I)肝レンズ核変性症(偽性硬化症とWilson病)
(II)歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症(DRPLA)と進行性ミオクローヌスてんかん(PME)
平山惠造

書評

- 1397 日本近現代医学人名事典 別冊 【1868-2019】増補 評者:富岡洋海
1399 救急外来、ここだけの話 評者:増井伸高

お知らせ

- 1325 時実利彦記念賞 2022年度申請者の募集

- 1400 投稿規定
1402 Information for Authors
1404 パックナンバーのご案内
1405 次号予告
1406 あとがき
巻末 第73巻総目次(1)-(5)

Topics Artists and Neurology

- 1309 **Shostakovich and Right Hand Weakness**
Takashi Kanda
- 1319 **Marcel Proust: Birth of Neurology of Memory and Time in "In Search of Lost Time"**
Mitsuru Kawamura, et al.
- 1327 **The Pathography and Art of Beethoven**
Kuniyoshi L Sakai
- 1333 **Van Gogh's Pathography and the Influence of Illness on Painting**
Takayoshi Shimohata
- 1341 **Egon Schiele and Dystonia**
Masaki Takao
- 1347 **Brain Substrate Underlying Outstanding Artistic Ability**
Masaru Mimura
- 1357 **Reading Dostoevsky and Polyphony from the Neuroscience Perspective**
Hajime Mushiaki

Reviews

- 1363 **Neural Mechanisms of Innate Recognition of Facial Stimuli in Primates**
Hisao Nishijo and Taketoshi Ono
- 1371 **Kampo Medicine for Intractable Brain and Neurological Diseases**
Masanori Niimi

Case Report

- 1377 **A Case of Parkinson's Disease Associated with Repeated Deterioration of Akinesia/Bradykinesia Due to Hypothermia**
Yumi Suwa, et al.

- 1402 Information for Authors

特集 芸術家と神経学

企画 本誌編集委員会

2020年に続く新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、2021年もさまざまな場面で否応なく変革を求められた1年であった。多忙な日々を過ごされ、いまなおニューノーマルの模索を続けておられる読者に向けて、神経学のいつもと違った顔を楽しんでいただけるクリスマス特集を企画した。「芸術家と神経学」をテーマに、資料や文献を基にしながら編集委員それぞれが知的好奇心の赴くままに思考をめぐらせた。稀代の作曲家や作家、画家たちと神経学、両者の間にどのようなストーリーがあるのか。神経学の奥深さをご堪能いただきたい。